

# 学内広報

2016.7.25

no.1484



「卓越性」と「流動性」と「多様性」をビジュアル化  
フォトコンテスト入賞作品展

「卓越性」と「流動性」と「多様性」をビジュアル化

東京大学

# フォトコンテスト入賞作品展

総長賞 ➔ Feeling Japan



島宏幸

本学職員・医学部附属病院



「卓越性」部門で入賞、「多様性」部門で総長賞をいただきました。「卓越」「多様」といったキーワードのもとで東京大学の風景を切り取ることは、それほど難しいことではありませんでした。東京大学の日常は、いつもこういった風景で満たされているからです。地球の裏側南米チリで、遠く120億光年以上先の宇宙をみている研究者の姿も、本郷キャンパスで日本の文化に初めて触れた留学生の笑顔も、東京大学ではありふれた日常の一部なのです。これからも、このような東京大学の風景を丁寧に切り取っていききたいと思います。

## 揃いの濃紺Tシャツは入賞の栄誉の証

6月6日(月)、伊藤国際学術研究センターの中会議室において、東京大学フォトコンテストの授与式が開催されました。入賞者には3つのキーワードが漢字で大書されたオリジナルTシャツが、理事賞 (the Executive Vice President's Awards) 受賞者の3人には各々図書カード5千円分が、そして総長賞 (the President's Award) 受賞者には最新のiPadが贈られました。授与式後のレセプションでは、テーマの一つである「多様性」をまさに代表するような、様々なバックグラウンドを持ち、東京大学と海外との間を行き来する「流動性」を持つ本学学生・教職員の受賞者が審査員とともに懇談し、東京大学の「卓越性」を感じさせる場となりました。



←残念ながら都合で会場に来られなかった入賞者の中には、プリントした顔写真での参加となった人も！

## フォトコンテストを盛り上げた Tシャツラリー集

コンテストの応募期間中、本学Facebook上で入賞者への賞品であるオリジナルTシャツを紹介する「Tシャツラリー」を実施し、毎回多くの「いいね！」をいただきました。まさかこんなに偉い先生方にご協力いただけるとは思わず、撮影の際は汗だくになりました (担当者談)。



羽田 正  
理事・副学長

古谷 研  
理事・副学長

相原博昭  
大学執行役・副学長

関村直人  
総長特任補佐

金範峻  
生産技術研究所教授

横山広美  
広報戦略企画室副室長

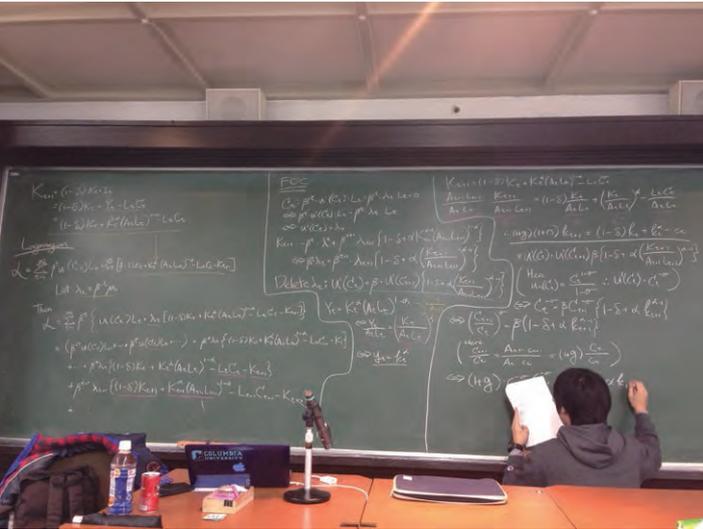
藤原帰一  
総長特別参与

光石衛  
工学系研究科長

本学のグローバル化推進の一助として、学生・教職員・卒業生を対象に行われた「東京大学フォトコンテスト」。約3ヶ月の期間中に応募された全174作の中から、審査の結果、入賞30作が選ばれ、そこから栄えある総長賞1作と理事賞3作が決定しました。卓越性と流動性と多様性をテーマに撮られた入賞作品を眺めながら、本学が目指すべきグローバルキャンパスの姿を想像しましょう。

**理事賞** ➔ **Academic excellence**

*Evidence*  
「卓越性」部門



El Medioni Arthur  
本学学生・公共政策大学院

I am really happy that my picture got selected to win the EVP's Award. I took this picture last semester in the TA session of the macroeconomics class when the TA was explaining to the student how to solve a complex problem. I thought this picture was perfectly illustrating the excellence of UTokyo. Indeed the black board is covered by mathematics equations and on the computer of the TA we can see a sticker of Columbia University, which is one of the best university in the world and a partner of UTokyo. I am looking forward to the next photography contest. I really hope that next contest topics will be broader so that many students will be able to submit interesting pictures.



国際協力の最前線で

山崎崇央



Absorption

Nicole Elizabeth Hasbum



ALMA

高宏幸



手の中のもう一つの宇宙

佐藤光秀



Excellence Behind The Joy

Ta Duc Tung



四月入学生とPEAK生との合併授業  
「細胞を培養しよう」 松田良一



迎えにゆきます

立石泰佳



「飛行ロボットプロジェクト」ゼミにてドローンを開発する学生 山崎朋征



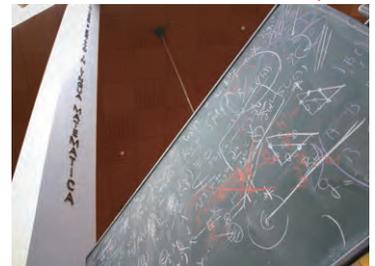
Enthusiasm

Orsi Roberto



Blackboard communication

Motoko Kakubayashi



Guidance

Xuan Truong Trinh



## 理事賞 ➔ Today - Gate to the World

### 「流動性」部門

Xuan Truong Trinh  
本学学生・PEAK

I was really moved by the announcement that my photo was chosen for the EVP's Award. By featuring PEAK students in front of Todai Komaba campus' main gate, I want to portray the Gate as a symbol for the beginning of students' journey in exploring the world. The students are seen stepping into the gate of Todai, signifying the university's readiness in welcoming international students and bringing in their diverse knowledge, contributing to globalize the campus. I hope this photo and the messages embodied in it would be a substantial part of representing Todai to the world.



## International Conference

Chun Fui Liew



## IWS Africa Rural Life in Benin

WS in Benin  
(Josiane Ponou)



## 「ふむふむ」

福井萌

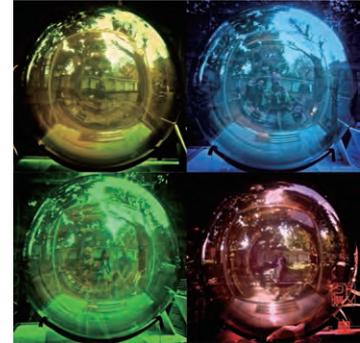
## KARIBU!! -UN-Habitat in Kenya-

WS in Kenya team  
(上野藍)



## International super-kamiokande

Tomasz Maciej Rutkowski

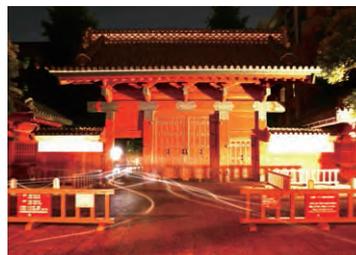


## Akamon Action

Stefan Paul Nikolas  
Knirck

## Happiness

Goutham  
Karthikeyan



フォトコンテスト審査委員長に聞きました

## 「東京大学グローバルキャンパスモデルの構築」へ



国際本部長  
理事・副学長

羽田 正

非英語圏の研究型総合大学として

今回のフォトコンテストは、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択された「東京大学グローバルキャンパスモデルの構築<sup>\*</sup>」の一環として、学内の多くの方にこの事業を知っていただくために実施しました。この構想では、2024年までの事業期間中に、非英語圏における研究型総合大学のモデルとなるようなグローバルキャンパスを実現することを目的としています。

本学がグローバルキャンパスとなるためには、「卓越性」「流動性」「多様性」の3つのキーワードが重要です。研究型総合大学として、学術の各

分野で世界最高・最先端の研究を行う「卓越性」を目指すことはもちろんですが、その卓越性を担保するためには、世界の様々な研究機関・研究者と互いに切磋琢磨することが不可欠です。このためには、「流動性」を高め、研究者や学生がいろいろな機関を互いに行き来する関係を構築することが重要です。流動性が高まることにより、文化、言語、ジェンダー、価値観等の「多様性」を活かした教育・研究・運営が可能になり、卓越性のバックグラウンドともなります。このことは、五神総長の「東京大学ビジョン2020」でも「卓越性と多様性の相互連環」として基本理念に掲げられています。

<sup>\*</sup> <http://www.u-tokyo.ac.jp/res02/sgu.html>

# Diversity 「多様性」部門

## 理事賞 ➔ We learn Nihongo!



Japanese Course I am, Center for Japanese Language Education  
(Stefan Paul Nikolas Knirck)  
本学学生・理学系研究科

Diversity – the variety of cultures, accents, languages, and the ways of thinking makes our world beautiful giving us opportunities to experience how things are thought and done differently. This spirit of Diversity can be felt in our Japanese classes. All of us have very different stories originated all over the world, meeting in this classroom finding new friends. Sharing and remembering this moment was the motivation for the submission to the Contest. For this wonderful prize as the whole class, we address all involved persons: どうもありがとうございました!



## 本郷キャンパスの日常(自転車整理)

環境課自転車整理チーム(中田慎)



## 春光に輝く 伊藤慎庫



## スペシャル・イングリッシュ・レッスン留学生TA (根本陽子) 東京大学スペシャル・イングリッシュ・レッスン



## HANAMI IN KASHIWANOHA KOEN Ricardo San Carlos



## 多様な人々の魅力 TEDxUTokyo (中川ゆりや)



## Transdisciplinary Discussion 南波香代子



## Diversity is beautiful Gloria Patricia Manurung



## MIT学生日本伝統的着物を着る M-Skype (森村久美子)



※コンテストの入賞作品を含めた応募写真は、本学の広報を目的として利用できます(著作権は撮影者に帰属します)。使ってみようの方は東大ポータルサイトの便利帳「フォトコンテスト応募写真の使用申請」をご覧ください。

## 多様な卓越性を象徴する作品群

今回のフォトコンテストでは、この3つのキーワードを表現するような写真を募集し、多くのご応募をいただきました。私たちの想像以上にキーワードを様々な解釈いただいた写真が多く、まさに多様な卓越性を象徴するような作品群から入賞作品を選ぶのは非常に難しく、審査員一同、嬉しい悲鳴を上げながらの審査となりました。私は残念ながら海外出張のため授与式には出席できなかったのですが、授与式やその後のレセプションでも、様々なバックグラウンドを持った学生・教職員の入賞者にお越しいただき、本

学の卓越性、流動性、多様性を象徴する場になったと聞いています。

国際本部・グローバルキャンパス推進室では、海外主要大学との緊密で創造的、かつ柔軟で特別な協力関係を実現するための「戦略的パートナーシップ」の構築や、本部と部局、教員と職員、部署間、学内と学外等、多軸的な連携を通して本学のグローバル化を推進するUGA (University Globalization Administrator) の育成等、様々な取り組みを通して東京大学のグローバル化をさらに推進していきます。今後とも、本学のグローバル化に関する活動へのさらなるご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

## 担当者より

本部  
国際企画課  
妹尾知美



募集開始当初は、全く写真が集まらず泣きそうでしたが、締切り間近に怒濤の応募があり嬉しくて(&作業が追いつかなくて)泣きそうでした。ペーパーの企画を応援してくださった全ての皆様に感謝いたします! 次回は、「英語で川柳大会」か「国際カラオケ大会」を開催したいです(笑)。Thank you very much for all your support!!

# 教養教育の現場から リベラル・アーツの風

第16回

創立以来、東京大学が全学をあげて推進してきたリベラル・アーツ教育。その実践を担う現場では、いま、次々に新しい取り組みが始まっています。この隔月連載のコラムでは、本学のすべての構成員がぜひ知っておくべき教養教育の最前線の姿を、現場にいる推進者の皆さんへの取材でお届けします。

## 学生の教育にもつながる社会人向け講義

／グレーター東大塾 「水素社会」から日本のエネルギーの未来を考える

お話／教養教育高度化機構  
環境エネルギー科学特別部門長 教授

瀬川浩司



### エネルギー・環境分野の人材育成を

— 今回の講義企画は、対象が学生ではなく卒業生・社会人なんですね。

「私が部門長を務める環境エネルギー科学特別部門は、環境とエネルギーの問題が一体だという観点に立ち、両面の知識がある人材を育てようとの思いで生まれたものです。これまで、日本では再生可能エネルギーを担う人材育成が不十分でした。たとえば、発電設備を作る人はいても発電の事業化を担う人が育っていない。そこを担う人材を育てないと真の普及はない、とずっと思っていました」

「そんな折、卒業生室から社会人向け講義企画の相談があったのです。再生可能エネルギーの変動電力をどう使うかには水素が肝だということで、今回は水素をテーマに設定し、従来は本郷で開催してきたシリーズを初めて駒場で行うことにしました。「グレーター東大塾」は通常30人が定員ですが、反響が大きくて今回は40人に拡大しました。水素の話題が社会に求められていることを実感した次第です」

— 学生と社会人では何が違いますか。  
「基礎となる知識量が違いますね。学生の場合は真っ白なキャンパスに絵を描いていくようなもの。社会人は各々がすでに現場にいる利害関係者で、色のついたキャンパスに描いていく感じでしょうか」  
「ディスカッションのなかで、講師側も現場の最先端の知識を吸収でき、一石二鳥です。実社会で何が問題かを把握できる。現受講生の皆さんは、いまの学生が20年後に社会の主力となる頃に相当します。その姿を我々が見て今の学生の教育にフィードバックすることで効果的な人材育成ができる。我々の教育内容も見直すことができる。私自身の F D にもなっていると感じます」

— 今の学生の教育にも貢献する企画ですね。予想外だった点はありますか。

### 受講生から学ぶこともしばしば

「受講生は各々の分野の専門家ですから、講師より深い知識を持っている場合がありますね。また、受講生のレベルもモチベーションも非常に高いのが特徴です。当初の予定にはなかった、受講生による

プレゼンを追加したのもそのためです」

「もう一つ想定以上だったのは出席率の高さ。感覚的には98%ぐらいですね。皆さんの集まりが早いのも印象的です。講義前から会場を開けてコーヒーなどを用意しているので、情報交換の場として活用されています。受講生のコミュニティができていて、講義後は食事しながらの第二部開講が常。私もほぼ毎回顔を出しています」

— 今後の構想を教えてください。

「講義録を書籍化して、参加していない人とも知見を共有したいですね。受講生向けに講義の動画配信もしていますが、将来的にはこれも公開するかもしれません。それから、今回は残念ながら予定が合わなかった講師をお呼びして、関連するシンポジウムも開く予定です」

「2050年のエネルギー問題を考えると、技術開発と同じくらい人材育成が大事です。35年後、私は現役ではなく今の学生ぐらいの若い人が最前線にいるでしょう。今彼らにいかにも高度な教育を施すかが日本の未来を決める。その場を提供するのが私のミッションだと思っています」

平成28年度春期グレーター東大塾 4月20日～6月29日

概論—日本のエネルギー戦略	瀬川浩司
水素社会の実現に向けたエネルギー政策	戸邊千広
「水素社会」の経済的な評価	藤井康正
先進的水素供給へのチャレンジ	村木 茂
水素製造と関連技術	岡崎 健
総合エネルギー企業の水素戦略	齋藤健一郎
水素貯蔵・水素輸送、需要予測	坂田 興
最先端水素技術	佐々木一成
再生可能エネルギー水素	太田健一郎
総括（+受講生によるプレゼン）	久保貴哉

「瀬川塾」開講は水曜18時から（講義90分+質疑応答60分）。学外から7人の講師を招聘しての講義ラインナップには「環境・エネルギー問題の未来に向かうストーリーを」という塾長の思いが込められています。



①4月13日に行われた開講式で挨拶する瀬川塾長。

②開講式後のレセプションでは、受講生同士、受講生・講師間での名刺交換と交流が盛んに行なわれていました。③環境エネルギー科学特別部門の活動を日記風に綴る松本真由美客員准教授のウェブコラム。部門ではアウトリーチ活動にも力を入れています。



## ワタシのオシゴト 第124回

RELAY COLUMN

先端科学技術研究センター財務企画  
チームプロジェクト執行室 加藤康洋

## 都心でB.B.Q.!?



With cheerful friends in the RCAST polo shirts

こちらは駒場Ⅱにある先端科学技術研究センターです。あまりにも名称が長いので「先端研(センタンケン)」や「RCAST(アールキャスト)」と呼んでいます。教養学部から少し離れた敷地にあり、とても穏やかで過ごしやすい場所で私はとても気に入っています。

さて、突然ですが皆さん、ご存じでしょうか？ この駒場ⅡにはB.B.Q.スポットがあることを！ その名も“RCAST Garden”。私は先端研への配属が2回目なのですが、初回である約20年前に当時事務部の某係長を筆頭に有志一同でバーベキュー場を整備したのです。整地から始まり、煉瓦を敷き詰め、炬の作製を行いました。今では無くなってしまいましたが当時ヤギのお世話をしていた方をモデルにした風見鶏も作製しました。それが今でも利用可能で、事務部でも毎年夏にはB.B.Q.大会を開催し、おいしく楽しい時間を過ごしております。うらやましく思ったあなた！是非、先端研勤務をご希望ください！

そうそう！「ワタシのオシゴト」でしたね！私の業務は買物係です。先生方のリクエストを聞いて、研究に支障がでないように物品を調達する仕事を主にさせていただいております。他のオシゴトとして、宴会担当をボランティアで行っております。楽しい宴は最高！！



The RCAST Garden

得意ワザ：うたた寝

自分の性格：適当

次回執筆者のご指名：Koji YOSHIZUMIさん

次回執筆者との関係：NAOJ時代の同志(と勝手に思ってる)

次回執筆者の紹介：情報ツウな頼もしい先輩！

※国立天文台

## ききんの き

明日の日本を支えるために

第24回

石岡吉泰 渉外本部 スポーツ振興基金担当  
特任専門職員

特別版

## 東大×スポーツ in 感謝の集い

梅雨半ばとなり、構内の紫陽花も見頃を迎えた6月24日、第10回「東京大学 基金感謝の集い」が開催され、2015年度「貢献会員」(寄附累計30万円)以上の学外寄附者60名以上の方々にご来場いただきました。

安田講堂の寄附者銘板等のご見学後、稲場渉外本部長による活動報告、石井理事・副学長による講演会、山上会館に会場を移した懇談会では、総長、役員、基金プロジェクト責任者等が出席し、寄附への御礼やプロジェクトの進捗状況を直接お伝えしました。運動会のマスコットキャラクター・イチ公も登場し、応援部のパフォーマンスでは「ただ一つ」を全員で斉唱するなど大変盛り上がりました。そして特別展示では、東大スポーツ振興基金に関するパネル等、「東大×スポーツ」の“今”をお伝えしました。

実は最近東京大学はスポーツで盛り上がっています。硬式野球部 宮台投手が大学日本代表に選ばれ、剣道部が全国大会8連覇、競技ダンス部が3連覇など活躍しています。また、日本を代表する7つの国立大学(北大、東北大、東大、名大、京大、阪大、九大)による総合体育大会、通称七大戦が本学主管で開催されており、現在総合順位1位(全42競技中9競技終了時点)と好調な滑り出しです。

研究面でもスポーツ先端科学研究拠点が開設され、14部局の参加で動き出し、開設記念式典には遠藤利明東京オリンピック・パラリンピック大臣、馳浩文部科学大臣も出席されるなど学外からも期待されています。

スポーツはアスリートだけでなく、全ての人がいきいきと活動する源となります。得手不得手に関わらず全構成員が運動習慣を身につけ心身共に健康でいられるような環境を整備するためにスポーツ振興基金があります。「東大×スポーツ」といっても関連部署は教育・学生支援系、研究推進系、施設系など多岐に及びますが、基金担当としてみなさんと一緒にチームワークを進めていければと思っています。



感謝の集いでは、応援部峯崎主将+イチ公+五神総長の豪華3ショットも実現！

東京大学基金事務局  
utf.u-tokyo.ac.jp/



## 決算のDOOR ～リロード～ 数字が導く東京大学の未来

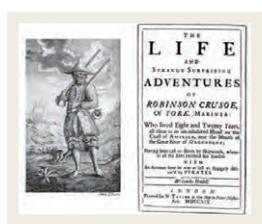
第6回

### 無人島でのバランス・シート

みなさん、こんにちは！先日、平成27年度の財務諸表が例年より一足早く文部科学大臣より承認されました。財務諸表とは、利害関係者に対し一定期間の経営状況や財務状態等を明らかにする書類。土地や建物、現金の出資者で、毎年交付金や補助金を措置する筆頭株主(?)でもある国に無事に承認され、決算課一同、ほっと胸を撫で下ろしたところです。

さてその財務諸表の一つ、貸借対照表 (Balance sheet) とは、会社や法人が保有する資産と負債の一覧表です。この一覧表を、18世紀イギリス小説の主人公、ロビンソン・クルーソーが無人島で作ったことをご存知ですか？ 若いうちに農園経営に成功したロビンソン・クルーソーは、アフリカへ奴隷の買い付けに赴きますが、航海途中で嵐に遭い、たった1人無人島に流れ着きます。絶望的な境遇のなか、心のバランスを取るため、自分自身の対照表を作ります。不利益な点を「借方」に、恵まれている点を「貸方」に。例えば、「(借方) 自分は恐ろしい孤島に漂着し、救われる望みは全くない」→「(貸方) でも、他の乗組員は全員溺れたのに、自分は助かっている」、「(借方) 身にまとうべき衣類がない」→「(貸方) でも、ここは暑い気候だから衣類があっても着ることができない」と一つ一つ仕訳をし、整理をすると、な～んだ、オレって結構恵まれてんじゃん、ラッキー♪と自らを取り巻く環境をプラスに捉え、孤島での生活を賢く逞しく切り開いていくのです。貸借対照表は彼にとって自分の状況を客観的に見直すきっかけとなる資料になったのです。

そんな貸借対照表は単に財政状態の現状を伝えるためだけの報告書ではありません。将来の計画のため、大学が考慮すべき負担の把握にも活用できます。大学の現在の総資産額は13,961億円。前年度に比べ0.2%増で喜ばしい限りですが、一方で、建物、構築物等不動産の減価償却累計額は前年度より16.6%も増加しています。更新財源である施設整備費補助金が年々厳しくなっていく中で、これら資産をどう維持管理し、教育・研究事業に活用させていくのか、ロビンソン・クルーソー同様、賢く逞しく生き抜くための一資料として、



本学の貸借対照表をどうぞご覧ください。(青)

D.デフォー作『The Life and Strange Surprising Adventures of Robinson Crusoe』(1719)

本部決算課 (内線22136) kessanka.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

## Crossroad

産業界と大学がクロスする場所から、産学連携に関する“最旬”の話題や情報をお届けします。

産学協創推進本部

第128回

### 産学共同研究-共同研究の組成から契約締結までの基本的な流れ

産学協創推進本部は、五神総長の掲げる「産学連携から産学協創へ」を進めるため、これまで以上に共同研究の組成に積極的に関与してきています。産学共同研究は、大学における研究活動を促進し、大学の知的財産を社会に還元する手段の一つで、契約や本学規則に基づいて、民間機関から研究者や研究経費等を受入れ、共同・分担して実施されるものです。互いが対等の立場で共通の課題に取り組み、優れた研究成果を創出することを目的としています。

今回は、共同研究申し込みから契約締結までの基本手順を説明します。まず、1) 民間機関等から、本学共同研究者の所属部局長に「共同研究申込書」を提出します。次に、2) 部局長が共同研究受入れを決定後、部局長が産学協創推進本部の定めた「共同研究契約書(雛形)」を民間機関等に提示します。雛形から契約内容を変更する希望がある場合は、産学協創推進本部で確認いたしますので、部局担当事務を通じて産学連携推進課・法務チームへ協議依頼を行ってください。3) 部局長は、民間機関等と本学との共同研究に関する契約の締結を行います(詳細は「発明と共同研究と起業についてのガイドブック」参照)。また、留意点として「研究担当者は原則、本学と雇用関係にある常勤の教員であること」が挙げられます。従って、学生やポスドクは本学とは雇用関係にはないため「研究協力者」との位置づけになります。学生やポスドクが産学共同研究に参加する場合、本人の意思を十分に尊重し、企業の同意が必要となります。共同研究形態の多様化に伴い、監督責任となる研究担当者は、学生やポスドクが関与する知的財産や技術流出リスクに対する適切なマネジメントが求められています。

産学協創推進本部では、様々な側面から教職員皆様の研究活動支援を行っています。随時、お気軽にご相談下さい。



産学協創推進本部 [www.ducr.u-tokyo.ac.jp/](http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/)



## インタープリターズ・ バイブル

第108回

医学系研究科 講師  
教養学部附属教養教育高度化機構  
科学技術インタープリター養成部門

孫 大輔

### 銭湯は住民の健康を向上させるか？

「谷根千（谷中・根津・千駄木）から銭湯やお寺がなくなると、住民の健康にも影響があるのか？」。筆者は昨年から地元住民らと協力し、上記のテーマで研究を進めている。街に古くからある銭湯やお寺、また谷根千の住民が行っているさまざまな活動は、地域の人々の健康資源や社会関係資本（ソーシャルキャピタル）となっているのではないかと、という仮説を持ったからである。研究メンバーは医療系研究者や保健師、僧侶、地元住民などであり、さまざまな視点から分析を進めている。

谷根千地域には震災や空襲の被害を免れ、古くから残っている建築物が多く、人が集う場となっている。その代表が銭湯や寺社である。つまり谷根千には江戸時代から続く「まちのDNA」が色濃く残っている。また明治以来、周辺の東京大学や東京芸術大学などから、アカデミアとアートの影響が地域に流入した。そのような文化的に肥沃な土壌でさまざまな住民発の活動が花開いたのである。

例えば銭湯歴50年のある女性は「銭湯は人を育てる場所」と語った。世代を超えた交流の場であり、社会的な学びの場であり、癒しの場であった銭湯は、不可欠なソーシャルキャピタルとして住民の暮らしに深く根付いてきたようだ。また「寺町」と呼ばれる谷中には70軒余の寺社がある。座禅会などで多くの人が集まるお寺もあれば、「ほおずき千成り市」という住民運営による縁日を境内で毎年開催するお寺もある。こうした場が、住民にとって「人とつながる場」「心地よい癒しの場」となっており、住民の地域への愛着と活力を生んできた。

しかし近年、銭湯や古い建築物が廃業や改築によって急速に失われていっており、間接的に住民の健康に負の影響があると考えている。科学技術インタープリターとしての筆者の役割は、地域住民に自分たちの健康資源に気づいてもらい、地域の健康と医学的知識の橋渡しの役割を担うことと考えている。



銭湯利用者の方々と研究チーム。

科学技術インタープリター養成プログラム  
science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp

## 救援・ 復興支援室 より

第60回

本学の救援・復興支援室の最近の状況や、遠野分室の日々の活動の様子をお届けします

### 救援・復興支援室の活動(6~7月)

6月8日	第27回救援・復興支援室会議
6~7月	岩手県陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティア

### ザシキワラシの日常<sup>34</sup>

本部企画課係長(遠野分室勤務)



文：佐藤 克憲

私が普段仕事をしている遠野分室は遠野市役所「西館」の3階にあり、遠野市の御厚意によりフロアの一部を間借りさせていただいています。西館の対面には東館もあり、更に両館の間には「中央館」という市役所のメインとなる建物があったのですが、中央館は東日本大震災時の震度5強の揺れで3階建ての1階部分の柱が座屈し、倒壊の危険性が大きいことから、震災の発生した年のうちに取り壊されました。

市の主要な行政機能は、JR釜石線遠野駅近くにありバス等も含めた公共交通機関の便がよい商業施設の2階に移り現在に至っていますが、他にも震災の影響等により市内10数箇所に部署や施設が分散していることから、商業施設の2階を活かしつつその向かいの土地に新たな庁舎を建設して集約化を図ることとなり、本年4月下旬から工事が始まりました。

現在多くの地方都市で問題となっている中心市街地の空洞化が遠野市でも課題となっており、この庁舎建設は中心市街地活性化の取組の一つにもなっていて、第2期遠野市中心市街地活性化基本計画（計画期間：平成28~32年度）によると、震災仮設住宅の公営住宅化やまちづくり会社設立などとともに、「人々が行き交う中心市街地」をつくるための事業として位置付けられています。

震災で主要行政拠点を失ってもただでは起きず、単に庁舎を再建するだけでなく中心市街地の活性化にも活かそうとするようなたくましさ、発想があってこそ、震災時にあのような素晴らしい後方支援活動ができたのでしょう。

今回もお読みいただき「オアリガトガンス！」。



(左)建設工事現場(新庁舎は奥の商業施設と渡り廊下でつながる)。(右)建設工事現場に貼られた新庁舎イメージ図。

www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/info\_j.html  
kyuenfukkou.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp 内線：21750 (本部企画課)

## トピックス

全学ホームページの「トピックス」(<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/topics/>)に掲載した情報の一覧と、その中からいくつかをCLOSE UPとしてご紹介します。

掲載日	担当部署	タイトル	実施日
6月16日	国際本部	「第2回戦略的パートナーシップシンポジウム報告書」発行	6月16日
6月17日	人文社会系研究科・文学部	第7回東京大学文学部公開講座を開催しました	6月11日
6月21日	政策ビジョン研究センター	東京大学政策ビジョン研究センター/IMF 共催セミナー「世界経済と中国—迫られる構造改革」開催報告	6月2日
6月21日	本部学生支援課	運動会硬式野球部の宮台投手が大学日本代表に選出されました！	6月19日
7月4日	本部学生支援課	【七大戦ニュース No.4】バスケットボール部は男女ともに残念ながら7位に	6月20日
7月4日	本部学生支援課	【七大戦ニュース No.5】男子ラクロス部が七大戦で見事優勝し2連覇達成！	6月24日
7月6日	本部学生支援課	【七大戦ニュース No.6】少林寺拳法部が七大戦5連覇！	6月26日
7月6日	大学総合教育研究センター	東京大学フューチャーファカルティプログラム 第7期履修証授与式	7月2日
7月7日	本部学生支援課	2016年度双青戦開会式が行われました！	7月2日
7月8日	本部学生支援課	【七大戦ニュース No.7】第55回全国七大学総合体育大会の開会式・レセプションを盛大に挙行！	7月2日

## お知らせ

人事異動情報など全学ホームページ「お知らせ」(<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/>)・東大ポータル等でご案内しているお知らせを一部掲載します。

掲載日	担当部署	タイトル	URL
6月24日	本部人事給与課	平成28年度名誉教授の称号授与	<a href="http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/notices_z1401_00003.html">http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/notices_z1401_00003.html</a>
6月28日	総合文化研究科・教養学部	松村剛教授がアカデミー・フランセーズのフランス語圏大賞を受賞	<a href="http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/notices_z0109_00017.html">http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/notices_z0109_00017.html</a>
7月7日	広報室	大西卓哉宇宙飛行士搭乗のソユーズ宇宙船打ち上げ成功にあたって（総長談話）	<a href="http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/notices_z0508_00012.html">http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/notices_z0508_00012.html</a>
7月8日	本部学術振興課	RU11 提言・見解：今後取り組むべき学術研究に関する施策について	<a href="http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/notices_z0706_00002.html">http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/notices_z0706_00002.html</a>



## CLOSE UP

## 公開講座「『忠臣蔵』と切腹」を開催しました

(人文社会系研究科・文学部)



講義をおこなう古井戸教授。



熱心に聞き入る参加者。

人文社会系研究科・文学部では、6月11日(土)、本郷キャンパス法文2号館において第7回東京大学文学部公開講座を開催しました。今回のテーマは「『忠臣蔵』と切腹」、講師は本研究科附属次世代人文学開発センターの古井戸秀夫教授が務めました。本公開講座は、平成12年から考古学実習施設のある北海道北見市常呂町で開催している「東京大学文学部常呂公開講座」を、より多くの方に発信し、社会連携を一層深めることを目的として、本郷キャンパスにおいても開講しているものです。

佐藤宏之副研究科長の司会のもと、冒頭に熊野純彦研究科長から開会の挨拶があり、本講座への期待が語られました。古井戸教授による講

義は、歌舞伎の『忠臣蔵』に登場する二つの「切腹」についての考察を中心に、ビデオなど実際の演目に関する資料を用いて、一般の参加者にもわかりやすい形で進められました。

今回は、日本の伝統芸能に関心のある多くの方々に来場いただき、150名近くの参加者をお迎えしました。また、6割の方からアンケートにご回答いただき、次回以降の本講座への期待の声が多く寄せられました。「話が分かりやすく、全てのエピソードが面白かった」、「大変勉強になった」というお褒めの言葉をはじめ、「まだまだ聴きたかった」、「またお話を聞きたい」といった待望の声も数多く頂き、今回の講座の好評ぶりが窺える結果となりました。

## 表紙について

今号の表紙写真は、生産技術研究所5棟ギャラリーで6月1日～11日に行われた「MAKING MAKE プロトタイプ制作展」展の出展作品の一つ。AM (Additive Manufacturing / いわゆる3Dプリンタ) により一体成形された生物型ロボットなのです。制作者である山中研究室所属の杉原寛さん (M2) によると、

各パーツが連結した状態で成形され、生物のようにほぼ完成した状態で生まれるそう。会場では、表紙のトカゲ型のほか、多足類型、ナウシカのオーム型、ヤドカリ型、円板型のものなどが突如じたばた動き出し、思わず声を上げてロボに触るお客さんが続出していました。Prototyping & Designを旗印に様々な発信を続けてきた山中研究室。今後の展示にも要注目ですよ。



写真・加藤康

**CLOSE UP**

フューチャーファカルティプログラム

**東大 F F P の第7期履修証授与式を挙行** (大学総合教育研究センター)



修了者の集合写真。

7月2日、福武ホール ラーニングスタジオにおいて、東京大学フューチャーファカルティプログラム(東大FFP)の第7期修了者に対し、履修証授与式が行われました。46名が修了し、本学の大学総合教育研究センターの須藤修センター長より履修証が授与されました。本プログラムは、大学院生・ポストドクター・若手教職

員を対象として、シラバスの作成や模擬授業の実施等を通じた教育能力の向上を目的とするものです。これまでに全ての研究科から、合計335名の修了者を輩出しています。2016年10月には、第8期が開講される予定です。プレエントリーを、<http://www.utokyofd.com/ffp/attend.html>で受け付けております。

**CLOSE UP**

**IMFとの共催セミナー「世界経済と中国」を開催** (政策ビジョン研究センター)



第一セッションでは篠原尚之教授(PARI)がモデレーターを務めました。

6月2日、東京大学政策ビジョン研究センター(PARI)とIMF共催の国際セミナー「世界経済と中国—迫られる構造改革」を開催しました。本年1月に続き2回目となった、東京大学とIMFの共催による今回の国際セミナー。会場の福武ホールは満席の聴衆で埋まり、Q&Aへの聴衆の参加を含め、活発な議論が展開されました。

第一セッションでは、本年4月発表のIMF「世界経済見通し」(WEO)第三章のテーマ「構造改革がもたらす経済に与える影響」をもとに、

著者のロメイン・デュバル氏(IMF調査局審議役)が発表。第二セッションでは、アルフレッド・シブキ氏(IMF北京駐在首席代表)が、中国経済のスローダウンの背景、進行中の経済のリバランシングが予想より時間がかかっていること、最近の資本流出の状況等を説明。世界経済の成長率低迷が懸念され、潜在成長率を高めるための構造改革の必要性が叫ばれる中で、世界経済と中国における構造改革の諸課題について、様々な角度から検討を行いました。

**CLOSE UP**

**スポーツの世界で東大勢が躍動しています** (本部学生支援課)



① 第40回日米大学野球選手権大会に出場する侍ジャパン大学日本代表選考合宿が、6月17日～19日に神奈川県のパッティングパレス相石スタジアムひらつかで行われ、本学運動会硬式野球部の宮台康平投手(法学部・3年)が同代表に選出されました。宮台投手は、東京六大学野球春季リーグ戦にて2勝4敗・防御率2.05の成績を残し、本学の12年ぶりの1シーズン3勝に大きく貢献。その活躍が評価されました。本学の選手としては33年ぶり2人目の快挙です。

②③④ 第55回七大学総合体育大会(七大学戦)が、本学主管により行われています。6月には6種目が行われ、ラクロス男子、

少林寺拳法、硬式テニス男子の3種目で東大勢が優勝を果たしました(硬式テニス女子は準優勝)。ラクロス男子は2連覇、少林寺拳法は5連覇、硬式テニス男子は3連覇を達成です。バスケットボールでは男女とも7位に沈みましたが、総合順位では堂々の首位に立っています(7月3日現在)。

⑤⑥ 7月2日には、七大学戦の開会式が安田講堂で行われ、本大会会長である五神総長のほか、大会副会長である六大学(北海道、東北、名古屋、京都、大阪、九州)の総長をはじめとする多くの方にご出席をいただきました。選手宣誓は本学運動会硬式野球部の山本克志主将が行い、柏葉会合唱団が東京大

学運動会歌「ただ一つ」の合唱を行いました。開会式後は神田錦町の学生会館に移動してレセプションを開催。チンパンジーの物真似を披露した京大・山極総長、中日ドラゴンズの替え歌を熱唱した名大・松尾総長ほか、各大学総長によるいづれ劣らぬ魅力的なスピーチ、各大学の学生代表による抱負披露のほか、イチ公をあしらった学生会館特製ケーキへの入刀、「大学戦士トーダイ」(東大特撮映像研究会)やダブルダッチサークル「D-act」によるパフォーマンスも行われ、会場は大いに盛り上がりました。

教育・研究は言わずもがなですが、最近の東大はスポーツでも目が離せません。

※お詫び / 前号のP7に掲載した生産技術研究所附属千葉実験所・地震応答実験棟の写真の天地が反転した状態でした。大変失礼いたしました。



## パンドラの箱

Y.B.「リサーチ・ポリシーに投稿した論文、査読結果がきたけど、何か、うるさいことを言ってきて、頭が固い査読者には、困ったものだよね」

S.S. (助教)「まわりを見渡すと、研究者って査読者のコメントを「まったくだ」と納得するのではなく、「自分は正しいが、査読者に従った方が早く採択される」って判断して直しているようです」

Y.B.「正直でないが、素直に従うことが自分のためになる。研究不正でなく科学者のノルムにも反しないDishonest Conformity (DC) っていう行為だよ」

S.S.「調査したバイオ分野の360名のサンプルでは63%がDCをして、93%の確率で論文を通します。従わないで再投稿を強行する研究者は19%おり、その反駁の70%は認められるけど、他ジャーナルに投稿し直すなど、最初にDCしないと採択率は52%に下がります」

Y.B.「当たり前だけど、やり得だなあ。でも、おかしいと思った査読者に従わなくても、即却下っていうのは18%止まりなのか。それでは、どんな要因がDishonest Conformityに効いているの」

S.S.「個人でみると教授職よりも准教授職、分野でみるとより競争的な研究環境が効いているし、投稿先のインパクト・ファクターでは中堅よりも弱小ジャーナルにみられる傾向です」

Y.B.「最近、大学で論文数や被引用件数等のマトリックス評価が重視されるようになって、研究者が成果を積みますために、与えられた機会を利用するオポチュニスティックな行為に走り、不正ギリギリが頻発しているっていうこと」

S.S.「実は、DCしない研究者の属性として、海外留学が効いています。米国を中心に研究倫理教育が徹底しているせいかな」

Y.B.「外国で研究室のボスから徹底した指導を受け、荒波に揉まれた学習経験が、帰国後に生きている可能性もあるね。逆に、この頃、みんなお金集めに忙しくて、日本でそういう機会が不足しているとしたらいやだよ」

S.S.「先生、弱気は困ります。ロジカルな論文を書き、査読者のどんなコメントにも的確に対応する研究者って、どんな環境からもきっと育ちますよ」

馬場靖憲 (先端科学技術研究センター)